令和７年２月１８日

草津市議会議長　西村　隆行　様

ゼロカーボンシティ特別委員会
委員長　　中島　美徳

令和６年度ゼロカーボンシティ特別委員会研修結果報告書

標題の研修結果は、下記のとおりでありましたので報告いたします。

記

１．期　間　　令和７年２月１４日（金）

２．日　程　　２月１４日（金）　草津市立クリーンセンター
午前９時５０分から正午まで
「草津市のエコ活動について学ぶ」

３．参加者　　委員８人、議会事務局職員２人

委員長	中島　美徳	副委員長	先成　俊士
委　員	福田　茂雄	野村　友子	横江　政則
	遠藤　覚	八木　良人	西川　仁
＜随行＞	議会事務局次長	松浦　正樹	
	議会事務局	中村　尚美	

４．その他　　詳細は別紙復命書のとおり

令和６年度ゼロカーボンシティ特別委員会研修復命書

令和７年２月１８日

草津市議会議長　西村　隆行　様

草津市議会ゼロカーボンシティ特別委員会
委員長　　中島　美徳

標題の研修結果は、下記のとおりでしたので復命いたします。

記

１．出張の目的

草津市議会ゼロカーボンシティ特別委員会研修

２．出　張　先

草津市内

３．出張の経過

■令和７年２月１４日（金）　9:50～12:00　　草津市立クリーンセンター

〇「草津市のエコ活動について学ぶ」

４．研修出席委員名

（委員長）中島　美徳　　（副委員長）先成　俊士

（委　員）福田　茂雄　　野村　友子　　横江　政則

遠藤　覚　　八木　良人　　西川　仁

５．随行者

議会事務局次長　松浦　正樹

議会事務局　　中村　尚美

◎ 「草津市のエコ活動について学ぶ」

説明者：環境経済部　青木 敏高副部長
　　グリーンパーク草津株式会社　平中 美子氏、小野 實氏
　　一般社団法人　環境文化フォーラム　宮城 成和氏

出席者：環境経済部　田中 三男部長、太田 一郎専門理事、
　　環境政策課　藤野 剛志課長、長江 大志郎係長、
　　温暖化対策室　森下 康二室長、津田 久美子係長
　　資源循環推進課　小川 卓史課長、石松 恒人係長
　　クリーンセンター　松尾 彩所長

別添資料に沿って説明後、ビデオ上映「草津市立クリーンセンターについて・循環型社会の形成をめざして」。

１．質疑応答

Ｑ：燃焼効率を上げるために、プラスチックごみで出されたごみの一部を焼却炉へ入れるということを聞くが、草津市はどうか。

Ａ：プラスチックごみは選別し、異物として出た物を焼却ごみに入れているのみ。リサイクルに回せないものは燃やしているが、草津市ではそういったことはない。

Ｑ：ロクハのお風呂はクリーンセンターのお湯で賄っていると聞いたことがあるがそのとおりか。

Ａ：そういったことはない。

Ｑ：５種類分別から１１分別へと変えられて苦労されたと想像する。びんの選別も手作業でされていることを知り、ある程度限界はあるかと思うが、今後、市民へさらなる分別の協力を呼び掛ける予定はあるか。

Ａ：市民に細かく分類をしていただくと、その後の行程がスムーズではあるが、例えば、ビンの場合、茶色・透明・すりガラスなど様々あり、問い合わせも多い。大津市の場合、別々で収集されていたが、市民からの問い合わせも多かったと聞いている。現時点では１１分別が最大と思っているが、課題はあるので、他市事例の情報収集に努めたい。

Ｑ：ごみの売電システムの中で、売電単価を上げるためには、ごみの質が影響すると聞くがいかがか。

Ａ：バイオマス由来・非バイオマス由来とで、バイオマスの方が国の固定価格買取制度で高く買い取ってもらえる。その他は、非フィットということで、単価は低くなる。今まで非フィットは関西電力に電気を買い取ってもらっていたが、クリーンセンターが出来てから５年経過した現在は、入札を行い、さらなる財源の確保に努めている。

Ｑ：守山市は、売電単価が安いと聞いているが、何が違うのか。
Ａ：平均単価については、バイオマスの比率が低いと、平均単価が下がってくる。

Ｑ：エコスタイルプラザでは啓発と学習を主にしているということだが、子どもだけではなく大人への啓発・学習も必要と考えるが、今後どのように進めていこうと考えているか。
Ａ：エコスタイルプラザの開館日とクリーンセンターの受け入れ日を合わせている。クリーンセンターの見学、エコスタイルの啓発を同時にしている状況であるが、今は施設全体の管理の中で、日曜日は閉館としている（イベント等での使用時は開館）。

Ｑ：ごみ袋の在り方が変わって１年半経過したが、現場の声を聞きたい。
Ａ：ピット見ていただいても、１０月以前・以降でピット内のごみの見た目に変わりはないと思うが、焼却ごみについては１年間で約６パーセント減少している。物価高等も影響しているが、近隣市や類似団体と比較して、他市は約３パーセント減少。その差が、今回の制度の見直しによる成果とみている。ごみの総量も減少。その間人口も増えているので、一人当たりのごみ量も減少している。
Ｑ：ごみ袋の在り方を変えたことによる結果の見える化（公表）が必要では。
Ａ：現状、ごみ量の推移については、ごみ問題を考える草津市民会議にも共有して、ごみジャーナルにてごみ量の推移を公開している。引き続き、効果についてはお知らせしていく。
→ごみジャーナル以外でも広報していくことで、啓発・意識改革につながると思う。

Ｑ：３Ｒの中の「リユース」の観点があまり見えなかったが、市の今後の進め方を伺う。
Ａ：リユースも非常に重要ということで、ごみアプリにてリユースショップのマップを作成したり、使える家具は官公庁オークションに出したり、細かく裁断し子どもたちの環境学習の素材として使用したりしている。ごみ処理するだけではなく、改めて使用していただけるような取組をしている。来年は、リユース事業のさらなる広がりに向けた取組を進めていきたい（他の売却サイトの活用等）。

Ｑ：パンフレット類（紙）の使用が多いように感じる。また、ここに来ずとも、動画配信などで学ぶ機会をつくるなどしてはどうか。
Ａ：最近作成した啓発物に関してはデータがあるので、今後積極的に活用していきたい。

Ｑ：壁面緑化はいつ完成するのか。
Ａ：上からの植物が想定通りに育たず、現在は工夫をしながら取組をしているところである。

２．視察の様子

３．所感

本年度のゼロカーボンシティ特別委員会では、令和３年度に行政と議会が共同で地球温暖化防止に努め、共にゼロカーボンシティを目指すという共同宣言をしたことがきっかけとなり、この委員会が立ち上がっています。このことを踏まえ、本年度は議会として「どのようなことをしていくのか」「市民に対してどのようなことを訴え、どうすれば行動変容を促せるのか」の答えを模索しながら調査・研究を進めています。そのような中、まずは本市のクリーンセンターの取組と併設しているエコスタイルプラザの活動を改めて確認すべく視察を行いました。

草津市は、５０年近く前よりごみの分別収集をされていて、市民にとっては当たり前のよう

なことですが、このことが環境に配慮されていることであり、プラスチックごみやペットボトル、ビン、缶、陶器、ガラスはそれぞれリサイクルや埋立地へ。燃えるごみは、よりよく燃焼が促進されるように十分に攪拌しながら炉の中でじっくりと高温で燃やし、極限まで排気ガスを無害にするだけでなく、焼却灰も埋立地に送るなどして環境に配慮された取組がなされていました。さらに、焼却時の熱を利用しての発電は大変効率が良く、クリーンセンター全体の電力を賄うだけでなく売電することで、市の財政負担を軽減しているとのことでした。

一方、エコスタイルプラザでは、小学生の環境学習に大きく寄与するだけでなく、「草津市こども環境会議」をはじめ、様々なイベントを続けることで、環境の大切さや一人ひとりの行動により、環境が大きく変わることの重要性を啓発し続けている施設となっていました。

ところが、エコスタイルプラザの活動については、市民にあまりよく知られていないのが現状であり、その原因の一つは開館時間にあるとのことでした。開館時間は、月から土曜日の午前９時から午後５時となっており、日曜日は休館であるため、来場者に限りがあり、近年減少傾向にあるとのことでした。

草津市は、５０年以上前から環境に配慮した活動を続けており、ごみの分別収集においては全国でも早い時期から実施されていたとのことです。また、常に環境への興味・関心を持ち、環境と自分の行動との関わりを理解し、身の回りの小さなことから取り組む「環境文化」を環境づくりの基本としてきた経緯があります。これらの背景は、ゼロカーボンシティにも深く関わるものであり、さらに市民に向けて訴えていただき、一人ひとりの行動変容へとつなげていただくことで、市が全国でも一番の環境先進都市であると誇れるよう、さらなる取組みに期待して所感とさせていただきます。

文責　ゼロカーボンシティ特別委員会
委員長　中島　美徳